

目 次	
P.1	読書の喜びを！
P.2-3	郷土史講座『所沢の暮らしと年中行事』
P.4	子ども読書の日
P.5	松井小学校図書館
P.6	新館長あいさつ
川柳募集のお知らせ	

# 復刊 いざみ



## 読書の喜びを！

近藤 君子

「自分の読もうと思っていない本を読んでいくことで、いろいろな本を知ることができました」、「自分が好きでないと思っていたジャンルの本とめぐり合うことができました」、「次は読んだことのない分類の本を探して読みたいと思いました」、「これは勤務する中等部高等部の学校図書館で、入学したばかりの中学1年生に行った「味見読書」で生徒達が「味見読書シート」に書いてくれた感想です。

「味見読書」は学校図書館が授業のなかで児童生徒に行っている読み聞かせ、ブックトーク、読書のアニメーションなどと、学校司書が教員と行っている読書支援の一つです。あらかじめ本を準備しておいて1年生に読みやすそうな本と少しグレードの高い本、2冊をセットにして生徒に手渡し、時間を切って、短い時間で本と出会い、味わった後に、次のセットと交換していき、5ラウンド繰り返すことで、全く興味のなかった

本に惹かれたり、話し合いの中でいろいろな本と出会ったりしていきます。回収されたシートを見るとグレードの高い本に○が付いていることが多くありました。「味見読書」終了後に「貸出予約用紙」に記入して本を借りて読むことが出来ます。多くの予約があり、1学年全クラスが終了後、本を貸し出しました。勤務校では新1年生が学校図書館を知るうえでも良い取り組みとして継続して行われています。

「この本、面白かったよ!」と、大人でも人から本を薦められたり、読書会に参加して自分が読まなかった本と出会うということは多いと思います。

子どもたちも図書館の「おはなし会」などの読み聞かせで絵本の楽しさを知り、家庭に借りて帰り、さらに本の楽しさを味わい、その積み重ねが読書の喜びに繋がっていくのではないかと思います。

所沢図書館では、子ども向けの

毎月定例の「おはなし会」や「こども読書週間」などの特別行事を開催し、夏休み前には小・中学生に向けてブックリストを作成しています。かつて勤務していた学校図書館でも、ブックリストとともに紹介されていた本のコーナーを作り展示をしていました。夏休み中も開館していますので、来館した子どもたちに本を紹介しながら手渡ししていました。今年もブックリストとともに、たくさんの方が子どもたちの手に取られ、読書の喜びが広がっていくことを願っています。

### 近藤 君子 氏

読書アドバイザー／(二社) 日本子ども読書研究会会員・『子どもの本棚』選定委員／親子読書地域文庫全国連絡会世話人・『子どもと読書』編集担当／児童図書館研究会会員／科学読物研究会・新刊研究会会員／学校図書館を考える全国連絡会世話人／学校図書館問題研究会・東京支部会員  
公共図書館および地域開放型小学校図書館に司書として13年間勤務後、大学図書館で4年間勤務。  
現在、ドルトン東京学園中等部高等部司書、都立特別支援学校図書館支援員として勤務中。

# 郷土史講座 「所沢の日々の暮らしと年中行事

—お正月とは何だろう—

講師 大館 勝治氏

令和五年一月二六日(木) 会場 所沢図書館本館

## (民俗学)

「みんぞく学」には、民俗学と、民族学の二つがありますが、今日は、民俗学の話です。民俗学は、自国の風俗習慣とか民俗芸能とかを。民族学の方は日本から見て、例えばアメリカの風俗習慣などを研究する時に使います。民俗学の祖と言われる人、柳田國男はご存知かもしれません。

## (年中行事)

年中行事というのは古い言葉で、日本での初出は平安時代と言われています。京都の御所の天皇が執事をする部屋に、宮中の一年間の行事を忘れないように書いた「年中行事の障子」というものがあり、それが最初と言われております。

## (七草粥)

七草粥を食べると風邪をひかないと言われています。春の七草が全部入っていません。ナズナが入っていれば、穀類でも粟や稗でも入れて七草になれば良い、と伝承にあります。ナズナを刻む時に



音を出す。これは、悪いものを音

で追い出すという風習。新潟の小正月の害鳥等を外に追い出す、鳥追いという行事。これが所沢や埼玉の七草粥の中に出てくる。越後の文化が入ってきているものはたくさんあります。盆踊りや、埼玉では万作踊りという農民の芝居があつて、お半、長右衛門など、そのような話が結構来ています。

七草粥は五節句の一つです。一月七日の人日(じんじつ)は一番初めの節句。七草粥を食べる時は、熱くても吹いてはいけません。吹くと田んぼに種もみを振る時に風が吹いて、平らに種が蒔けないと厳しく言われていました。一月から食事一つにしても、田んぼのことを考えながら、行事をやっていたわけです。

## (年神様)

正月というものは、年神様という、明きの方(あきなた)という方角から来てくれる神様です。明きの方は恵方。方角の良い所から来てくれて、豊作を祈り、家々に幸福をもたらしてくれる神様です。辞書に「年」とは、稲の実りのことと書いてある。

稲と関係の深い神様なんです。川越氷川神社の山田勝利先生が、川越市を中心に調査した時に、所沢では、年神様は稲の神様と言っています。恵方から来る神様だから、所沢でも家の梁に、正月棚という小さな棚を年神様が来る方へ向けて飾ってお供えをします。年神様に、新しく取れた米で作られたお餅をお供えする。この餅を、年玉と呼んでいる地方もある。

お年玉とはその年の魂ということ。年の魂だから餅が大切なのです。大切に食べて力をつけたお父さんなりが、年神様の力を家族や親戚に与えるのが本来のお年玉。それが変わってしまった。

折口信夫という民俗学者は、冬はミタマノフユ(御霊の冬)。魂を増やすのが語源と言っています。古いヨーロッパの宗教もそうですが、太陽の力が衰える。そうした時に力をつける。日本では冬ごも

りをして、年神様の力を頂いて、活性化させる。それが冬の語源と言っている。春はそういう生活が晴れると言っている。そうかもしれませんよ。

## (餅つき)

大事な神様を迎えるにあたって、すす取りをしてから餅つきをする。以前は家の中で薪などを燃やしたので、柱などは真っ黒。掃除しないと餅の中に煤が落ちてしまう。餅つきは、大体十二月二十八日から三十日です。二十九日は苦しい日、と嫌う。三十一日は一夜で何かやるのは葬式と同じなので特に厳しい。絶対にやっけてはいけません。

一年でもっとも大切な正月行事の伝統を残していきたい。

## (餅なし正月)

さて、餅をつかない家もあります。ついてあつても食べられない。民俗学では「餅なし正月」と呼んでいる。埼玉では餅の代わりに三日、うどんを食べる。「餅なし正月」は全国にあります。田んぼのないような所も多い。所沢も結構多いです。所沢から秩父方面にかけては、「芋吸い物」というものを

食べた。芋と大根の吸い物です。大根、里芋は古くから、所沢や秩父の方の田んぼのない所で日常的に食べていた。今の青首大根とかではなく、でんぷん質が多くて硬い、御飯代わりになるような大根が食べられていたと推測しています。芋吸い物も埼玉では、秩父地方が多いです。三が日が明ければ餅を食べる。それだけ年神様に、うちの方は稲じゃないとアピールしたんですね。餅をお吸い物につけて食べる。これが雑煮だという話も聞いたことがあります。



### (小正月)

小正月は一月十五日を中心とするお正月です。一月十五日は、色々な儀礼が集中して行われる。繭玉団子も十五日です。稲作地帯では餅花ですが、所沢などは繭玉。米を粉に引いて団子を作り、蜜柑等を添えて、花が咲いたように木に刺して、このように実ってほしい

という、目に見える形で年神様にお願ひします。稲作地帯には田んぼの豊作を祈る民俗芸能で、セクシャルな所作をするものがある。それもやはり稲の穀霊が見ている実るのだという日本人の考え方からです。東京・板橋の田遊びの民俗芸能に見られます。儒教思想が中国から来る前は、恋愛事情も、源氏物語等を読むとフリーです。昔は夫婦だつて一緒に暮らしません。夜這いというのは「妻問ひ」の一つで「よぼう」、「呼び合う」という。それが夜這うなんて書くようになるから淫靡な印象になってしまったわけです。

### (節分)

節分とは立春前日の行事ということ。大豆を撒まかないと駄目です。大豆の呪力によって悪いものを除くという。大豆は古い時代からそういう風に使っています。大豆が大事なのです。

それと、玄関に鯛の頭を焼いて、柊を添えて。あれは「やつかがし」と言います。焼き嗅がし。焼いて臭い匂いを嗅がして悪いものを追い払います。臭いもので悪いものを退治する、というのが日本の香文化にあります。端午の節句の菖

蒲や柚子など、良い香りで悪いものを追い払う場合もあります。

### (旧曆五月)

旧曆五月は、田植えの季節なので重要な月です。田の神様を迎えないと田植えができない。田の神様の名前は、サと言います。サの神様が降りてくるのをサオリ。終わって、田の神様を送るのをサノボリと言います。埼玉県内ではサナブリと言って田の神様に感謝をします。五月は「さ」がつくのが多い。皐月、五月女、早苗など。お酒の古語の「ささ」とかもみんなそうです。

### (十日夜)

十日夜(とおかんや)は稲の神様、田の神様が帰る旧曆十月十日。子供達が、藁鉄砲で地面を叩きながら家々を回ります。西日本では、亥の子という。それが所沢近辺に入ってきています。「十日夜、十日夜、亥の子の牡丹餅生でもいい」の十日夜の行事の歌があります。研究するなら面白いのは、十日夜の日を「大根の年取り」ともいう。十日夜の行事は大根の収穫儀礼とも言えます。

### (質問コーナー)

「若水のことをお聞きしたい。」

若水は、正月初めの水で、力があると解釈されます。正月様に供えるために、お風呂も沸かしますし、綺麗な水を、井戸等から汲んでくる。

所沢は狭山丘陵という立派な丘陵があつて、清水がコンコンと湧いていました。綺麗な水が湧く所だから、所沢と呼んだのだろうと。子供の頃は、「ところさわ」って言うていました。市の広報紙もところさわって書いていました。昭和三十五年に県に、正式には「ところさわ」、慣用的には「ところざわ」と報告したから「ざわ」になった。全国でも七割が「くさわ」です。

### 大館勝治氏

所沢市出身。大学卒業後、現在の埼玉県立さきたま史跡の博物館の学芸員として就職。その後、埼玉県の様々な歴史民俗に関する施設を担当。埼玉県立歴史資料館の開設に当初から携わり館長も務めたほか、入間市博物館の基本構想などに関わった。文化庁文化審議会専門委員、埼玉県文化財審議会委員などを歴任。長年にわたって民俗学について取材、調査研究。現在さいたま民俗文化研究所所長として活躍。

## 子ども読書の日 関連行事 ～本館の取組～

4月23日は、「子ども読書の日」です。この日は、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、法律で定められた日です。所沢図書館では、「子ども読書の日」に合わせて、4月22日(土)、23日(日)の2日間、5つのイベントを開催しました。各イベントの様子を一部ご紹介いたします。

### 《スペシャルおはなし会》

4月22日(土)、午前と午後の部と2回にわたりおはなし会を開催しました。今回は、おはなし会ボランティア勉強会、ストーリーテリング勉強会の皆様にご協力を



いただきました。プログラムは、絵本、すばなし、手遊びうた、大型絵本など全5演目で構成し、普段のおはなし会とは違う特別感のある内容で、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

### 《スペシャル工作会》

4月22日(土)、23日(日)の2日間で、計4回にわたり「割れないシャボン玉を作ろう!」という題で工作会を開催しました。キラキラの折り紙を、竹ひごに取り付け、回転させるとシャボン玉のような不思議な形に見えるおもちゃを作りました。参加者は、2歳～小学5年生までと幅広い年齢層の子どもの参加がありました。図書館のイベントに初めて参加した方も多く、これを機に図書館に足を運ぶ方が増えたら嬉しいです。



### 《スペシャルかみしばいの会》

4月23日(日) 所沢紙芝居の会にご協力いただき、スペシャルかみしばいの会を開催しました。おはなしを始める前に、拍子木も取り入れたことから、紙芝居ならではの雰囲気味わうことができました。また、子ども達とやりとりしながら進めていく参加型の紙芝居もあり、とても楽しそうなおはなしを聞いていました。



### 《おはなし会+工作会》

4月23日(日) 所沢市文庫・親子読書会連絡会のご協力のもと、絵本、紙芝居、手遊び、パネルシアターなど全5演目で構成されたプログラムで読み聞かせを行いました。パネルシアターや、大型絵本は、参加型のおはなしで、とて

も楽しそうなおはなしを聞いていました。おはなし会終了後には、紙コップを使用した工作「くるくる紙コップ」を作りました。



### 《クイズラリー》

4月22日(土)～5月14日(日)までクイズラリー「トベアとなぞをとけ!」を開催しました。初級編(小学生以下向け)・上級編(小学生以上向け)の2種類を用意しました。初級編は足跡を辿り、上級編は地図と手掛かりメモを見てチェックポイントを探し、絵本を読んで、クイズに答えながらこども室内を巡ってもらいました。クイズを解き、全問正解した子どもに手づくりのしおりや、シールなどを渡しました。

# 松井小学校図書館の行事

〒359-0025 所沢市上安松 895

Tel.04-2992-2796 Fax.04-2992-2797

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜、祝日(月曜の場合は翌火曜も休館)、月の最終水曜日  
※入館できる方は、市内在住の児童とその保護者などに限られます。  
詳しくは、松井小学校図書館までお問い合わせください。

松井小学校図書館では、「**小さな本から 広い世界を見つけよう**」をテーマに、子どもたちが利用しやすい図書館づくりを目指しています。

図書館づくりを支えるものの一つに、松井小学校図書館ならではの定例行事、特別行事を展開しています。今回は、そのいくつかを紹介いたします!

◇地域の方から  
いただいた竹箆で  
「七夕かざり」を  
行いました。

飾られた色とりどりの  
短冊には、子どもたちの  
たくさんの願いごとが  
書かれています。



◇ほくの、わたしの「**心に残る本の紹介**」コーナー



◇毎月開催する4歳児以上の子どもたちの  
「おはなし会」月3回

◇小学生以上の子どもたちを対象とした  
「小学生のためのおはなし会」第2土曜日



◇夏休みに開催する「**夏のこわーいおはなし会**」  
子どもたちの **ドキドキ** という心の音が聞こえてきます…



◇新年の願いを「**絵馬**」に描こう!!



◇おはなし会で  
「**絵本でカルタ**」の大会!!



◇テレビカメラを使って「**折り紙教室**」



職員手づくりの「**魔女**」人形や **おりがみ小物**でみなさんをお出迎えます

創意工夫を凝らした行事を開催しています。

# 新館長あいさつ

所沢図書館長 橋本 浩志



今年度四月より、所沢図書館長に就任いたしました橋本と申しますが、入庁して三十四年目でありますが、図書館は初めてでございます。今後、諸々図書館の事を学びながら、市民の皆様から、より一層愛される図書館を目指してまいりますので、どうぞよろしく願います。

私の勤務先である所沢図書館本館は、市民の憩いの場所である航空公園内にあります。この建物は最高裁判所や警視庁本部庁舎を手掛けた著名な建築家、岡田新一氏の設計である事を最近知り、感慨深いものを感じました。昭和五十五年の建設から四十三年余りが経過しましたが、今も煉瓦造りの瀟洒な佇まいが印象的な建物であり、この歴史ある建物で仕事ができる喜びを、日々感じています。

各階の閲覧室からは、四季折々の見事な眺望を楽しむ事ができます。是非、多くの皆様にご来館いただき、ゆったりとした気持ちで、思い思いの時間をお過ごしただければ幸いです。

所沢市の図書館は、本館以外にも指定管理者で運営されている分館七館を含め、市内に八館ございます。既に蔵書数も百万冊を超え、近隣の人口三十万人以上の自治体の図書館と比べても、見劣りしない蔵書数を誇っています。

しかしながら、蔵書数はあくまでも数でありますので、優先すべきは市民の方々の満足度ではないかと考えます。公立図書館としての責務を果たしながら、市民の皆様への学びの機会や好奇心を満たす体験活動の提供、そして、読み聞かせや絵本の紹介を通じて、親子の絆を深める切っ掛けづくりなど、皆様の豊かな人生に寄り添えるような存在に図書館がなればと思います。

そして何よりも、図書館法第三条に定められた奉仕の気持ちを忘れずに、単なるサービスとは異なる付加価値を皆様に提供できるように、職員一同努めて参ります。

今後とも皆様のご理解、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 川柳募集のお知らせ

図書館に関する川柳を募集します。ご応募いただいた川柳は所沢図書館本館に掲示し、来館者による投票を行います。票の多かった川柳は復刊いずみにて発表いたします。

### 【提出方法】

いずれかの方法でご提出ください。※一人五句まで

① 所沢図書館本館の窓口。

② 郵送・住所・氏名・希望者は雅号・電話番号・川柳を記入し、送付。

送付先：〒359-0004 2

所沢市並木1-13

所沢図書館本館 広報担当宛

③ 電子申請・ホームページ又は左の二次元バーコードから。

電子申請はこちら



【締切】

一〇月一七日（火）

【注意】

ご提出いただいた川柳は返却できません。



編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421

所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195

椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148

狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577

松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680

吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250

柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236

新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906